



山村振興のキーポイント

【山村塾から学ぶ】



多様な人々の連携

人と人のつながりが 活動を大きく展開

地元農家と都市住民との連携、そして大学との連携から町役場と一体となった活動へと、人と人のつながり、家族と家族のつながりが取組を大きなものへ展開していくことにつながっている。

都市と農山村の心理的な距離を近くし、もっと多くの人が気軽に農林業、農山村に関わり、互いに支えあうことが大切であり、そのために、多くの人が農山村にかかわるきっかけづくり、場づくりを行っていくことが必要である。

山村の価値を高める取組を率先

担い手を育てる研修会

ボランティアの質を高める

里山・棚田の保全を行っていく上では、単なる参加者を増やすのではなく、確かな技術を身に付けた担い手も多く育てることも必要。そのため、外部の技術者を講師として招聘して、多くの人が森林づくり、棚田づくりに参加できる研修会を定期的に開催している。

世界的に知られた地域へ

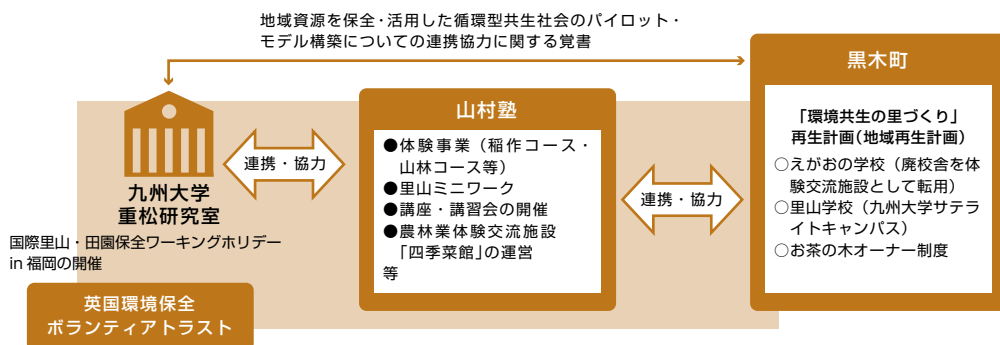
大学と連携し 外国からも参加する活動へ

取組当初は、都市住民を対象とした里山・棚田の短時間の見学ツアーや単発的なイベントに留まっていたが、大学と連携することで、大学や先生がもつネットワークを活用できるようになり、都市住民、学生のみならず、外国のボランティア団体ともつながりが持てるようになった。それら大学、団体との活動を継続することで、世界から様々な世代のボランティアが集まり、今では黒木町が「里山・棚田保全」の代名詞として扱われるなど町のPRにも大きく寄与している。大学との接点をもったことが、活動を大きく拡げる上で非常に効果的であった。



活用した組織と制度

町をあげて大学と連携



お客さん扱いをしない 年間を通じた家族ぐるみの活動へ



山村塾 事務局スタッフ 小森耕太氏

発足当時約30であった会員数は、今は100を超える家族、個人、団体となりました。受け入れ側の「楽しくなくなったらやめよう」という緩やかなスタンスと、農山村の自然を守りたいという熱い気持ちに惹かれて、次第に人が集まり、活動の幅も規模も大きくなっています。山村塾の活動で大切にしているのは3点。一つ目は「お客さん扱いしない」こと。農家が都会から来た人達を受け入れると、ついついお客さん扱いしてしまい、もてなそうとなってしまう。しかし、都会の人達が求めるのは、豪華な料理ではなく、農家が日ごろ食べているようなホッとする郷土料理であり、お膳立てされた体験イベントではなく、都会では味わえない非日常体験なのです。

二つ目は「年間を通じた活動を行う」こと。四季折々に変化する里山の景色や旬の食材を使った

郷土料理。田植えや草取り、稲刈りといった四季の農作業を通じて味わうことができる。単なる作業体験だけでなく、その作業を行う季節の景色や気候、においや味といった季節を丸ごと体験してほしいという願いがある。最後に、「家族ぐるみの活動」です。初めは子供に体験させたい、と参加した親御さんたちが次第にのめりこみ、子供の先頭に立って汗を流している。親が楽しんでいることには、自然と子供も興味を持つ。また、家族で体験を共有することで、その場限りの体験にならず、家に帰ってからも山村塾の話題が出てくる。そのような活動によって、美しい里山・棚田の保全につなげていくことが大切だと思っています。



今後の課題・展望

都市住民が参加しやすい活動を拡げる

目標1

市民参加の 水土保全の 森づくりの推進

群状間伐という手法を取り入れた、小規模で市民活動にも適した間伐手法を導入して、生産を柱としながらも人と自然に配慮した森づくりを進める。

目標2

非効率による 「農山村」の 本来の姿を保全

食料自給率の低下による農業の効率化が叫ばれる中で、一見非効率に思える方法でも、本来の農山村が持つ魅力を引き出し、多くの協力者や農山村のファンを育てる農法を推進。

目標3

実践型環境保全 ボランティア活動 の推進

「国際里山・田園保全ワーキングホリデー」の経験を通じて、実践型環境保全ボランティア活動の推進のために、楽しさと安全に責任を持つことのできるリーダーの育成と地域拠点の形成が必要。

関連・関係する団体

黒木町企画課 〒834-1292 福岡県八女郡黒木町大字今1314番地1 Tel: 0943-42-1111